



Sustainability Report 2025

シーシーアイグループ サステナビリティレポート

化学は世のため、人のため。

シーシーアイホールディングス株式会社
サステナビリティ・コンプライアンス推進室
岐阜県岐阜市橋本町2丁目20番地 濃飛ビル12階
<https://cci-corporation.com/>

Sustainability Report 2025

シーシーアイグループ サステナビリティレポート

化学は世のため、 人のため。

安心・安全・快適なモビリティ社会を実現したい。

落ち着いて暮らせる、静かな住環境を提供したい。

人々の健康で豊かな生活を支えたい。

環境に優しいモノづくりを突き詰めたい。

私たちシーシーアイグループは、

長年にわたり培ってきた化学の力を活用し、

豊かな社会と持続可能な地球環境の実現に貢献してまいります。

企業理念

Our Purpose 私たちの存在意義

「新しい」を共創し、
世界に安心・安全・快適を提供します

Our Values 私たちの大切な価値観

Change

変革への挑戦

Create

お客様目線で
創意工夫

Innovate

全員で経営革新

経営基本方針

「CHANGE」競争力を維持・向上させるため、
時代に合わせ、ビジネスモデルを変え、働き方を変える。

CONTENTS

Introduction

- 02 企業理念
- 03 目次・編集方針

Top Message

- 04 トップメッセージ

Outline

- 08 価値創造の歴史
- 09 シーシーアイグループについて
 - 10 シーシーアイの事業内容と主要製品
 - 11 国内グループ会社
 - 12 暮らしを支えるシーシーアイグループ製品

Vision

- 13 価値創造プロセス

Strategy

- 14 事業別概況
 - 14 カーケミカル事業
 - 15 住設・建材事業
 - 16 産業タイヤ事業
- 17 特集
新たな事業の探索

ESG

- 19 サステナビリティの取り組み
 - 20 重要課題およびKPI
- 21 ESG活動報告
 - 21 環境
 - 24 社会
- 26 特集
企業理念の浸透活動
- 29 ESG活動報告
 - 29 ガバナンス
 - 31 ESGデータ一覧



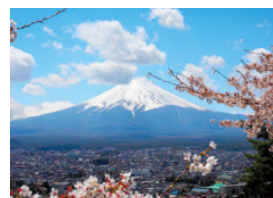
新潟県中魚沼郡津南町



兵庫県美方郡香美町



グアム



山梨県富士吉田市



富山県中新川郡立山町



グアム



ネパール ルンバサンバ峠



新潟県中魚沼郡津南町

シーシーアイグループでは、従業員を対象に「未来につなぐ風景」をテーマにした写真の社内公募を行いました。多数の応募作品の中から優秀作を紹介します。

▶ 編集方針

シーシーアイグループは、すべてのステークホルダーの皆様
に当社グループのサステナビリティに関する考え方や取
組みをお知らせするために、本レポートをWebで発行して
います。E(環境)・S(社会)・G(ガバナンス)に対する事業活
動を通じた取り組みに加えて、企業価値の向上をめざす目
標も掲載しています。当社では、今後もサステナビリティ経
営の推進に努め、継続して情報を開示してまいります。皆様
からのご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

▶ 対象期間

2024年4月～2025年3月

▶ 対象範囲

シーシーアイホールディングス(株)、シーシーアイ(株)
およびシーシーアイグループ(国内・海外)

※本文中の「シーシーアイ」はシーシーアイホールディングス(株)および
シーシーアイ(株)の総称。
「シーシーアイグループ」はシーシーアイおよび国内、海外のグループ会社の
総称。

▶ 発行時期

2025年7月(毎年7月発行予定)

▶ 担当部署・問い合わせ先

シーシーアイホールディングス(株)
サステナビリティ・コンプライアンス推進室

▶ 参考としたガイドライン

GRIスタンダード(GRI)、ISO26000

▶ 免責事項

本レポートには、シーシーアイおよび対象範囲となる会社の
過去と現在の事実だけでなく、発行日時点における計画や
経営方針、戦略に基づいた将来予想が含まれています。この
将来予想は、記述した時点で入手できた情報に基づいた仮
定ないし判断であり、諸与件の変化によって将来の事業活
動の結果等、予想とは異なったものになる可能性があります。
皆様には、以上をご理解いただきますようお願いします。



グループ一体となり、事業活動を通じて、 豊かな社会の実現に挑戦し続けます

「100年に1度の大変革期」を 成長のチャンスに

内燃機関のエンジン車からBEV、HEV、FCV等、次世代自動車が台頭している今日、自動車業界は「100年に1度の大変革期」を迎えていると言われています。自動車の安全走行に必要な不可欠なブレーキフルードやエンジンクーラントを主力製品とする当社にとっても、大きな事業転換期であると言えます。エンジン車が電動車両(EV)に置き換わることで「クーラントもなくなるのでは?」といった声をお聞きすることがありますが、エンジンに限らずモーターやバッテリーも発生する熱を上げすぎたり下げすぎたりしない「サーマル(熱)マネジメント」が必要であることから、将来的にクーラントがなくなるとは考えていません。また、クーラントの今後の活用先として注目して

代表取締役社長/CEO

岡部 鉄也

いるのが次世代データセンターです。AIの台頭やクラウドサービス、ストリーミングサービスの利用拡大により、飛躍的に増加しているデータセンターのサーバーの冷却に、熱伝導率の高い液体の利用が期待されており、大いにビジネスチャンスがあると考えています。クーラントの活用は冷却に必要なエネルギー消費やそれに伴うCO₂排出の削減にもつながります。

自動車電動化されることで、これまで気にならなかった走行音に対する人の感覚も変化しています。当社には、住宅設備や建材の領域で培った制振技術があり、これらもまた自動車の制振に活かせると考えています。更に産業タイヤの領域においても、半導体製造施設等で摩擦抵抗が少なく、少ない電力で動かすことのできるタイヤのニーズが高まっています。こうした時代の変化やニーズを取り込んだ、付加価値のある製品開発に積極的に取り組んでいきます。

2023年の日本ケミカル工業株式会社に続き、2024年に株式会社ユーエスシーをグループに迎え入れました。同社は石油・化学製品のメーカーであり、かつ輸入商社としての機能も兼ね備え、全国に30カ所以上の営業拠点を有しています。同社がグループに加わったことで、当社の提案力や開発力、販売力が格段に飛躍することが期待できます。今後は、それぞれの企業が培ってきた事業やモノづくりに対する強みを学び合い、販売網の活用等

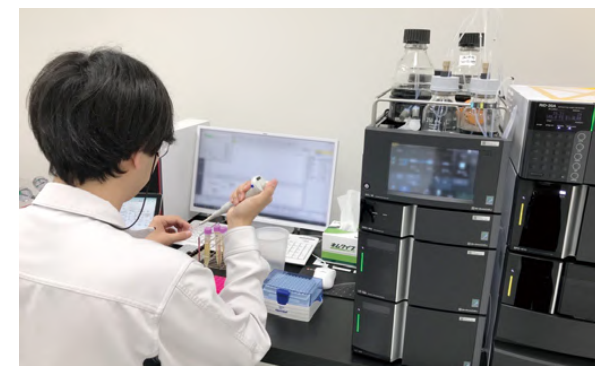
を通じてお互いのシナジーを高め、事業面での共創に取り組みたいと考えています。我々の強みを一層高めることで、今後もお取引先の皆様の競争力強化に貢献することをめざしてまいります。

持続的な成長を実現するための 布石を打ち続ける

当社では事業における社会的・経済的価値の向上をめざすと同時に、サステナビリティ経営を推進しています。その一環として、カーケミカルの製造工場からスマートファクトリー化への取り組みを進めており、産業タイヤ等、他の事業領域にも順次拡大する予定です。

スマートファクトリー化においては基幹業務システム(ERP)の刷新により、経営資源の有効活用をめざしています。生産性の向上や作業の負荷軽減はもちろんですが、今後、グローバルレベルで品質基準を統一していく方針です。法令や規制等、国・地域で異なる点がありますが、生産状況の可視化や、作業の属人化の解消等を通じて、世界共通の品質基準の確立を推進します。

この度、消費者向けカーケア用品事業からの撤退を決定しました。これは車に対する価値観の変容や将来的なシェアリングエコノミーの市場規模拡大を見越して、B



環境配慮型製品に向けた研究開発

to Bビジネスを強化していくべきタイミングだと判断しました。カーケア用品事業で培った製品技術は、今後自動車ディーラー・専門店向けにプロ用製品として強化していく計画です。当社の持つ技術力を活かせるよう、マーケティングにも取り組み、グループとして迎えた企業の販売力も活用します。当社の持つリソースを最大限に生かし、新たな成長分野への投資を積極的に行ってまいります。

製品開発においては、創業以来、研究開発型メーカーとして歩んでまいりました。特にR&Dにおいては、経営資源を十二分に投下していると自負しています。特に石油に依存しない、環境に配慮したバイオ由来の製品開発は、今日のような環境対策がクローズアップされる以前から取り組みを進めています。鉱油を分解する微生物の研究を加速させており、この技術が製品化すれば、海上の

原油流出事故等において、物理的に浄化しづらかった場所の浄化が実現する他、土壌改良への活用も期待できます。また切削油にも利用できるため、各種の金属加工業においても環境負荷の低減が期待できます。安全性が高く、環境負荷を抑制できる技術の開発、更に実用化に向けて今後も引き続き注力してまいります。

基準遵守の徹底と管理体制の再構築を実施

近年、自動車業界では品質不正等の問題があり、自動車業界に深く携わる当社においても、人命に関わる製品を供給している責任を改めて認識し、同時に当社でも問題



スマートファクトリー化の進展により生産工程の見える化、効率化とともに高品質な製品の安定供給を実現

が起こらないとは限らないとの危機感を持ちました。そこで2024年度、スマートファクトリー化の推進に合わせて、社内における作業工程を再点検いたしました。これにより各工程における作業手順の有無はもちろんのこと、規格やお客様の品質要求に応じて、工程に組み込まれた検査項目も詳細に確認しました。守られるべき品質管理ポイントや、ガバナンスの観点からも改めて精査し、従業員全員がその重要性を理解できるような仕組みづくりを行っています。また従業員が安全に作業できているのか、事故を起こさないための工程も点検しています。各工程における潜在的な危険を洗い出し、安全対策についても、手順やルールを見直しました。1年をかけ、法令をチェックする仕組みを整備できたと考えていますが、作業工程の見直しや品質管理は、一度取り組んで終わりというものではありません。技術の進化や社会情勢の変化に伴い、新たな課題やリスクが生まれる可能性もあるため、今後も定期的に点検を行い、必要に応じてブラッシュアップを継続していきます。

意識改革、行動変容を実行。 未来に向けたビジョンを創り上げていく

2025年は、昨年度からの取り組みを更に深化させ、生産現場の安全対策を重要課題として位置付けています。お客様の求める品質を守ることは我々の使命であり、生産性向上に向けて効率的に作業することは、企業の成長において不可欠です。しかしこれらの目標も、従業員の安全の上に達成されるべきものであり、工場は定められた規則を遵守していれば事故を未然に防げるはずで、そこで今年は基本に立ち返り、2024年に見直した作業手順を徹底的に実行します。従業員一人ひとりの意識を高めることで、





グループ各社のメンバーによるディスカッション

管理体制も含めた安全第一の徹底をめざします。

重要施策として「目的の共有化」も進めています。これは組織やチームが共通の目標に向かって協力するためには、本質的な目的を全員が理解し共有することが重要であることを、従業員一人ひとりに業務の中で理解、浸透させる取り組みです。先ほどもお伝えした通り日本ケミカル工業株式会社に続き、株式会社ユーエスシーを当社グループに迎えました。バックグラウンドや風土が異なる企業が一つになったことで、私たちは今一度、どのような未来を描いていくのか、我々のあるべき姿とはどのようなものなのか、方向性を共有しておく必要があります。

また10年後、20年後の当社のあるべき姿について、グループの次代を担う若い世代の方にも考えてほしいと考えています。現在進行中の「グループビジョン策定プロジェクト」は、そうした思いで立ち上げました。これからグループとしてどう成長するのか、そのための指針を作成している段階です。グループビジョンそのものは2025年度中の完成をめざしており、新たにグループとして加わった方たちと一体となって取り組みたいと考えています。

地域社会への貢献は 企業としての重要な施策

現在、国内6社、海外9カ国に14社を擁するグループとして、ブレーキフルードは15%、エンジンクーラントにおいては25%の世界シェアを誇るグローバル企業となりましたが、このような成長を遂げることができたのは、創業以来75年にわたり、岐阜という地に根差し、地域社会に支えられてきたお陰だと考えています。そのような思いから、当社は地域社会への貢献活動を重要な施策と位置付け、さまざまな活動を展開しています。

その一つであるスポーツの活動支援においては、岐阜県スキー連盟のフリースタイル部への協賛を継続的に実施し、選手育成や競技発展に寄与しています。また次世代を担う子どもたちの育成支援にも力を入れており「シーシーアイカップ岐阜県U-9(サッカー)」を2024年も開催しました。また2024年は新たに、企業版ふるさと納税を通じてユネ



シーシーアイカップ
岐阜県U-9を開催

スコ世界文化遺産「合掌造り集落」を有している岐阜県大野郡白川村の地域活性化や、持続可能な発展のための寄付を行いました。今後も、地域社会への貢献活動を継続し、持続可能な未来を地域と共創していきたいと考えます。

どんなに世の中が進化しても、 人中心の企業でありたい

AIが発達し、自動車の世界でも自動運転技術が進化する等、新しい技術が私たちの社会に大きな変革をもたらしています。一方で飛躍的な技術の発展は、人の役割や存在意義を問い直す機会にもなっています。

このような時代だからこそ、私たちは今後も、「人中心のモノづくり、工場づくり」を大切にしたいと考えています。テクノロジーがどのように進化しても、その中心には常に「人」が存在すべきです。今後もシーシーアイグループは、従業員一人ひとりの人間性を尊重し、お客様や社会とのつながりを大切にする企業文化を醸成していきたいと考えています。また、新たにグループに迎えた企業と共創することで、我々の可能性を最大限に発揮できる環境を整えたいと思います。多様な価値観や経験を持つ人々が互いに尊重し、協力し合うことで、今後も、地球環境に配慮した製品開発に取り組み、豊かな社会の実現をめざしていきます。

価値創造の歴史

1949年にブレーキフルードメーカーとして創業して以来、幅広い分野に事業領域を拡大し、様々な変革を成し遂げてきました。私たちはこれからも、安心・安全・快適を提供し続け、次のステージに踏み出します。

1949



1949年5月
中央化学工業株式会社 創立

ブレーキフルードメーカーとして誕生

悲しい事故を無くしたいという思いから、「不撓不屈」の精神でブレーキフルードを開発



1970

ゴム事業 (現 産業タイヤ事業)に進出

新たな事業の柱を育てるため、新分野である産業用ウレタン車輪を開発



1977

カーケア用品事業に進出

これまで培ってきたカーケミカルのブレンド技術を活かし、車が庶民の足となった時代背景の中、一般消費者向けのカーケア用品事業に進出(2025年1月末 一般消費者向け販売を停止)



1980~1990

海外進出

世界品質の技術を糧に、時代の流れを先読みし、大きな市場をめざし米国に現地法人を設立。その後、台湾、英国、タイに現地法人(または支店)を設立



1980年12月
米国現地法人 設立

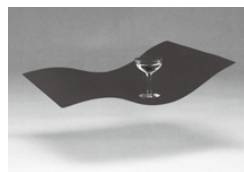


1981年9月
台湾現地法人 設立

1992

制振事業 (現 住設・建材事業)に進出

制振、吸音・遮音等カーケミカルで培った技術を、安全で快適な住環境づくりに展開



2000~

グローバル供給体制の強化

更に世界中で製品を供給できる体制を広げるために、中国(5拠点)、メキシコ、ブラジル、ドイツに現地法人、マレーシアに合併会社を設立



2005年5月
中国広東省佛山現地法人 設立



2017年7月
ドイツ現地法人 設立

2007~

環境配慮型製品の開発

今まで培ってきた技術を活用し、環境に配慮した製品を開発、販売



2007年6月
下田エコテック(株)をグループ会社化し、グリーストラップ(油脂分離阻集器)の設計・製造・販売を開始



2018年
オイルバニッシュ(油脂分解微生物製剤)の開発・販売を開始

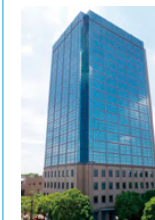
2023~

新たなステージへの一歩

お互いの強みを融合し、シナジーを発揮して日本ケミカル工業(株)、(株)ユーエスシーと共創



2023年8月
日本ケミカル工業(株)をグループ会社化



2024年4月
(株)ユーエスシーをグループ会社化

売上高の推移

■ 国内売上高 ■ 海外売上高

シーシーアイグループについて

私たちは、顧客第一(Customer Focus)の研究・開発を積み重ね、グローバルにビジネスを展開しています。

会社概要

シーシーアイホールディングス株式会社

本社所在地 岐阜県岐阜市橋本町2丁目20番地 濃飛ビル12階

創立年月日 2013年(平成25年)4月1日

資本金 1,000万円

事業内容 グループ会社の経営管理および付帯業務、不動産の賃貸・管理、基礎研究



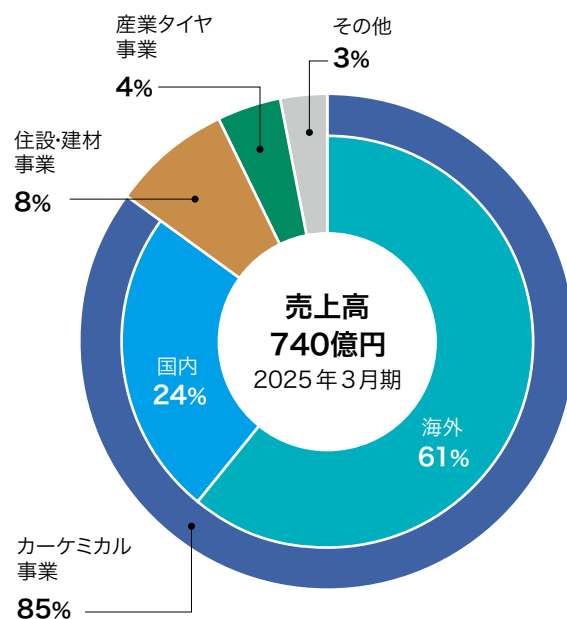
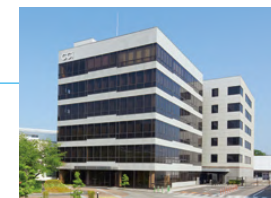
シーシーアイ株式会社

本社所在地 岐阜県関市新迫間12番地

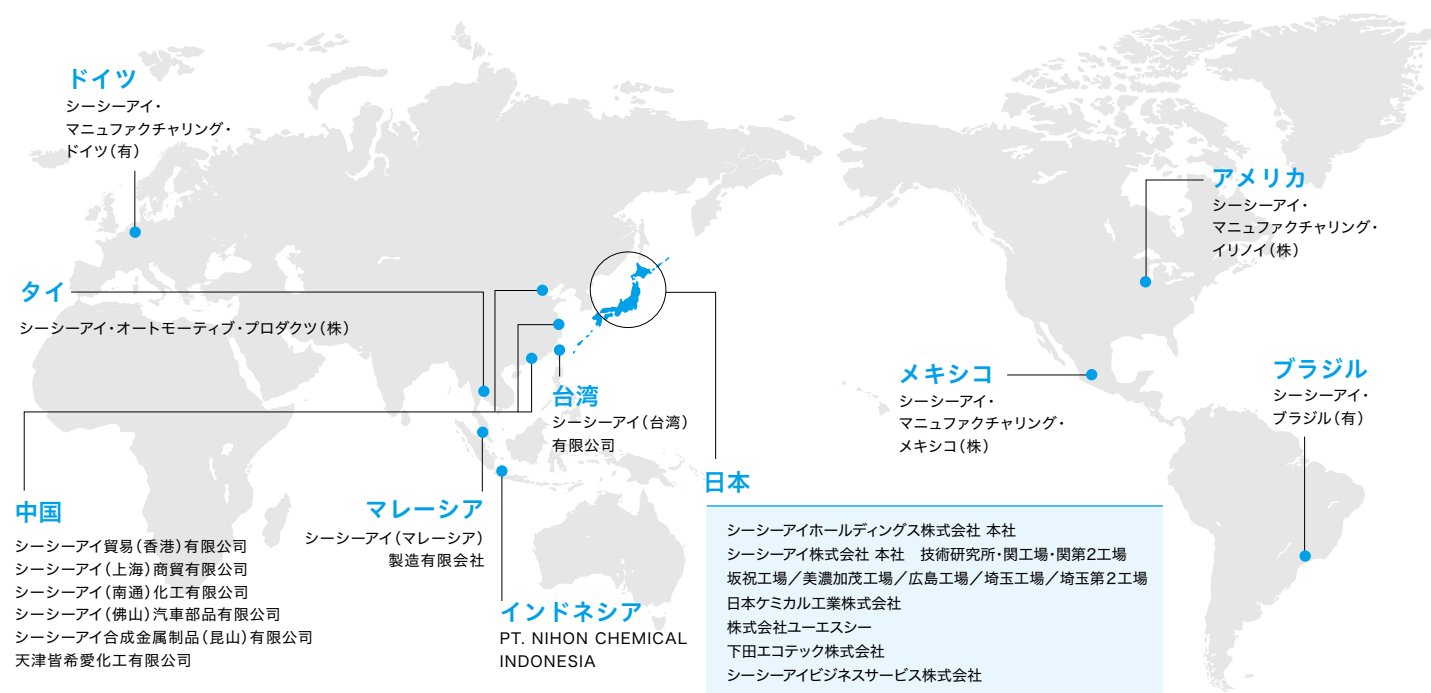
創立年月日 1949年(昭和24年)5月31日

資本金 12億6,000万円

事業内容 カーケミカル、カーケア用品、樹脂・ゴム製品、防音材・制振材等の開発・製造・販売



グローバルネットワーク(海外 9カ国14社・国内 6社)



シーシーアイの事業内容と主要製品 お客様の「安心・安全・快適」のために、3つの事業領域で、より良い製品・技術をお届けしています。

カーケミカル事業

各自動車メーカーのOEMメーカーとして、主にエンジンクーラント、ブレーキフルードを供給しており、安心・安全をお客様に提供しています。世界中の自動車メーカーにご使用いただけるよう製造、供給体制を確立しています。またカーケア用品も取り扱っており、快適なカーライフを実現すべく自動車ディーラー・専門店向けにプロ用製品も提供しています。

エンジンクーラント

ゴールドエンクルーザー ロングライフクーラント

内燃機関車、BEV、FCV等、あらゆるエンジンタイプに対応した製品を取り扱っています。耐熱・耐酸化安定性に優れた防錆添加剤を使用しているため、長期にわたり強力な防錆防食効果を維持。群を抜く耐久力で冷却水系統の腐食によるトラブルを防止します。



ブレーキフルード

ゴールドエンクルーザーブレーキフルード

含水しても沸点が緩やかに低下するよう、他製品よりもウェット沸点が高く設定されており、長期にわたり安全走行に欠かせない高沸点を維持します。また優れた防錆防食性能が各種金属を錆から守ります。環境負荷の低い製品から、低粘度の製品「Class6」、レース用ブレーキフルードまで幅広く取り扱っています。



タイヤワックス

GC タイヤワックス

密着型シリコンの被膜が艶を与え、酸化劣化からタイヤを守ります。他の部品に悪影響を及ぼさない安心・安全の水性タイプ（中性）です。容器は環境に配慮したパッキンBOXを使用しています。



住設・建材事業

音・振動エネルギーを吸収できる素材、遮音材と塩ビ管を一体化した防音排水管等を取り扱っています。戸建て住宅からアパート・マンションまで様々な分野のお客様へのご提供が可能です。お客様の住環境の改善に加え、現場施工の手間や時間の短縮につながる製品のご提案も積極的に行っています。また油脂を分解する微生物製剤も取り扱っています。

防音排水管

音ナイン

住宅のトイレや台所等の排水音を大幅にカットする防音排水管「音ナイン」シリーズは国内トップシェア。戸建て住宅からマンション・ホテル・老人ホーム等の耐火建築物まで幅広い建物に対応可能です。また現場で働く職人の作業手間を考え、加工しやすい構造になっています。



産業タイヤ事業

熱硬化性ウレタンの中でも注型ウレタンをホイールに接着したウレタン車輪を主に取り扱っています。安心・安全な走行に必要な不可欠なウレタンの接着性は他に負けないアドバンテージを持っており、マテハン機器や遊戯機器に多く使用されています。環境に優しい（抗菌性・導電性等）ウレタン車輪も品揃えし、設計段階からご要望をお伺いし、小ロットから対応しています。

産業用ウレタン車輪

ウルトランス

シーシーアイのウレタン車輪の大きな特徴の1つが耐久性です。ウレタンと芯金を独自の技術で接着することで剥離を防止し、長寿命化を実現しました。



国内グループ会社 会社概要

日本ケミカル工業株式会社



本社所在地 静岡県静岡市清水区吉川813

創立年月日 1962年(昭和37年)4月3日

資本金 1億円

事業内容 自動車用ケミカル製品の製造・販売
建物・構築物洗浄剤の製造・販売
自動車用リビルド部品の洗浄

自動車用を中心にケミカル製品を開発製造・販売する会社として、長年に渡りお客様とともに歩み、各種製品を生み出してきました。品質だけでなく、人に優しく地球環境と調和した製品の開発を念頭に、未来に必要な次世代ケミカル製品をご提供していきます。

主要製品



燃料添加剤

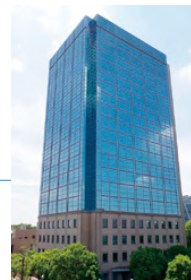
燃料タンクに注入することで、インジェクター等に付着した汚れを除去し、従来のエンジンの性能を呼び戻します。



電気自動車用冷却液 (EV Coolant)

電気自動車のバッテリー冷却に当社製品が活躍しています。事故等で冷却液が漏れて電池に接触した際、ショートによる発火リスクを大幅に抑制します。

株式会社ユーエスシー



本社所在地 東京都府中市日鋼町1-1
ヒューリック府中タワー12F

創立年月日 1947年(昭和22年)9月16日

資本金 7,600万円

事業内容 石油・油脂の販売・輸出入
化学製品・工業用薬品・自動車機能部品等の製造・販売・輸出入
飲食品・酒類・農畜産物・食用油等の製造・販売・輸出入

石油・化学製品を扱う製造メーカーとして、また輸入商社として、オリジナルブランドである「ズームパワー」を中心としたカーケア・ケミカル商品をコアとし、更には自動車用機能部品、食品、飼料、産業製品等最先端の商品を直営ネットワークでお客様と直結した販売展開を行っています。

主要製品

自動車ボディコーティング剤

洗車工程に5分程度の作業を加えるだけで、抜群の光沢と撥水性を持たせることができるコーティング剤です。特別な技術や大きな設備投資は不要で、短時間で簡単に施工できます。酸性雨からボディをガードします。



エンジンオイル用摩擦調整剤

金属表面に複数の極圧剤による被膜が生成され、摩擦摩擦を大幅に減少させます。エンジン性能を改善し、滑らかで力強い走行を確保します。



下田エコテック株式会社



本社所在地 東京都台東区柳橋1-1-12
マキリバーサイドビル5階

創立年月日 2001年(平成13年)6月29日

資本金 1,000万円

事業内容 グリーストラップ(油脂分離阻集器)の設計・製造・販売
HACCP*対応製品の設計・製造・販売
その他関連する建築工事

グリーストラップや各種阻集器等の厨房用排水処理機器、「食」の安全管理を目的としたHACCP対応排水機器の設計・製造・販売を行っています。厨房を含む店舗全面積や利用人数に合わせた最適な排水処理機器をご提供できるよう幅広いラインナップをご用意しています。

主要製品

HACCP対応製品

抗菌性や洗浄性に優れたステンレス製排水桝・排水側溝です。HACCP認定工場等の清潔な衛生環境をサポートします。



グリーストラップ

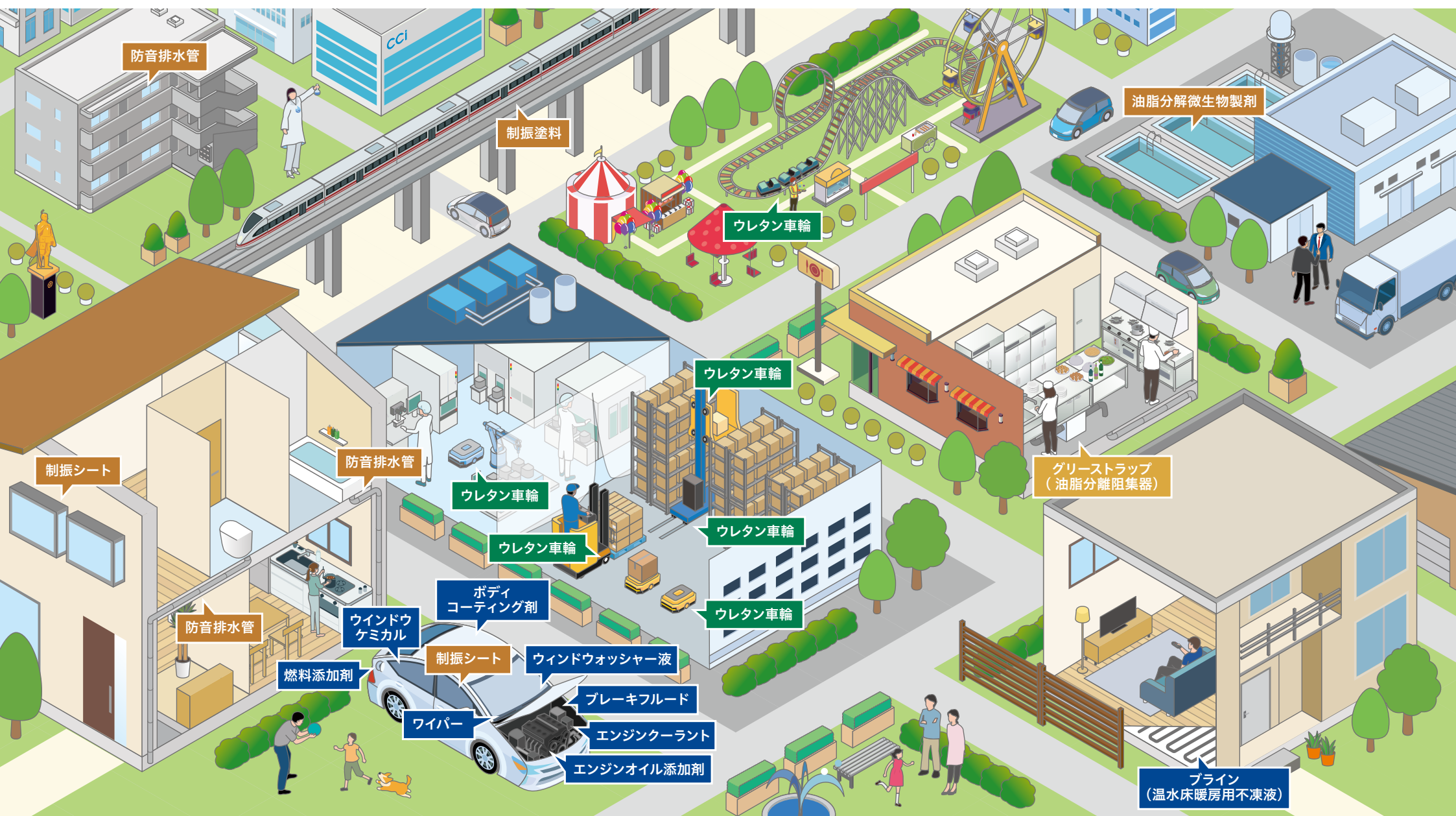
厨房排水の油の流出を浮上分離により阻止し、配管の閉塞を防ぎ、公共下水や河川への油脂の流出を阻止することで環境問題に貢献します。



※HACCP:食品の安全性を確保するための国際的な衛生管理手法

暮らしを支えるシーシーアイグループ製品

私たちの製品は、私たちの暮らしの様々な場面で活用されています。身近な生活環境の場面より一例を紹介します。



価値創造プロセス

これまで培ってきた技術的成果を活用し、人々の豊かな暮らしに貢献する新たな価値を創造し続けます。

企業理念

Our Purpose
私たちの存在意義

「新しい」を共創し、世界に安心・安全・快適を提供します

Our Values
私たちの大切な価値観

Change Create Innovate
変革への挑戦 お客様目線で創意工夫 全員で経営革新



カーケミカル事業

自動車産業における変化の波を捉え、 新たな価値創造に挑む

シーシーアイグループのカーケミカル事業は、エンジンクーラント、ブレーキフルードの分野において高いシェアを誇り、高品質な製品をグローバルに提供しています。海外のR&D拠点を含めた研究開発体制を構築し、世界中のお客様のニーズに合致した製品開発を推進しています。

現在、自動車産業のトレンドはBEVやFCVにシフトしています。車両の電動化が進展する中、当社はこれまで培ってきた技術を活用し、BEVやFCVに対応した高い安全性を備えたクーラントの製品化に向けて研究を継続しています。

近年、自動車が「所有」から「利用」にシフトする等、需要構造の変化を背景に、市販用カーケア用品の製造、販売を中止し、グループとしてより強みが活かせるB to B分野に注力することとしました。国内におけるB to B事業の強化の為、国内に34の営業拠点を有する株式会社ユーエスシーをグループに迎え入れ、今後グループ各社が培ってきた技術力や専門性を融合させ国内での販路拡大に注力します。

一方グローバル市場においては、東南アジアや中東では市場拡大の余地があります。今後は、これらの地域を重点市場と位置付け、積極的な顧客の開拓を通じて更なるシェア拡大を図っていきます。

工場では現在スマートファクトリー化を推進しています。この取り組みの目的は、グローバルで統一された生産・品質基準を確立し、世界のどの拠点においても、均一で信頼性の高い製品をお客様にお届けできる体制を構築することにあります。国内製造拠点ではすでに運用を開始しており、今後は海外拠点においても順次導入を進めていく予定です。

環境面においては、事業活動を通じて発生するCO₂の削減や廃棄物の抑制等の課題に積極的に取り組み、シーシーアイグループ製品をご使用いただくお客様、そして地球環境

事業内容

各自動車メーカーのOEMメーカーとして、主にエンジンクーラント、ブレーキフルードを供給しており、安心・安全をお客様に提供しています。世界中の自動車メーカーにご使用いただけるよう製造、供給体制を確立しています。

の「三方よし」となるような提案を重視しています。2024年度からは新たに「通い容器（折り畳み式コンテナボックス）」の取り組みを開始しました。一部のお客様に対し、これまで使い捨て（ワンウェイ）であった鉄製ドラム缶や段ボールを、繰り返し使用可能なステンレス製ドラム缶や通い容器に切り替えることで、廃棄物を削減するとともにお客様へコストダウンを提供しています。今後は、この取り組みを他のお客様にも拡大し、さらなる環境負荷低減を図っていきます。

製品の梱包材の見直し

環境保護を目的として、製品の納入時の梱包材の見直しを行い、梱包材をダンボールから繰り返し使える通い容器（折り畳み式コンテナボックス）へ切り替えました。お客様のご理解を得て、毎年発生していた段ボールの廃棄物を抑制することができました。この取り組みは、環境への配慮だけではなく、コストの削減にもつながります。



事業別概況

住設・建材事業

環境変化を成長の糧に、制振・吸音技術を強化。 新たな領域の課題解決をめざす

住設・建材事業は主力製品として住宅向け防音排水管を提供しており、静かで快適な住環境の実現に貢献しています。しかし国内の住宅市場は少子高齢化に伴い、全体としては縮小の傾向にあります。このような事業環境の変化に対応すべく、これまで培ってきた制振技術や吸音技術を新たな分野に応用した、商品化をめざしています。2021年より「制振、吸音の新プロジェクト」を開始。既存の枠組みにとらわれることなく音や振動に関する情報を幅広く収集し、将来の事業の柱となる可能性を追求していますが、吸音材についてはこれまで培ってきた技術と新たな知見を基盤に新素材の開発に着手しました。従来の吸音材とは異なる特性を持ち、高い吸音性能を発揮する素材の開発に取り組んでいます。

制振塗料についても、常温環境下で最大限効果を発揮する製品のためのラインナップでしたが、新たに高温環境下において優れた性能を発揮する塗料を開発しました。現在、本格的な製品化に向けて準備を進めています。今後、常温タイプと高温タイプに加え、ニーズにあった温度域においても適切な制振効果を発揮する塗料の配合について、検討を進めていきます。

制振技術や吸音技術に関する素材開発は、当社と最も関わりの深い自動車業界での活用を目標の一つとしています。特に近年、BEV等の電動自動車が普及し、車両の静粛性が

高まる一方で、これまでエンジン音に隠れていた風切り音やメカニカルノイズ等が顕在化し、新たな課題となっています。こうした変化に対応するためには、従来とは異なる視点での制振、吸音素材の開発が求められています。シーシーアイでは現在その第一ステップとして、さまざまな素材の組み合わせや加工方法を検討し、製品開発に向けた基礎的な研究に取り組んでいます。

オイルバニッシュで環境改善

オイルバニッシュは、食品工場等の排水中のn-Hex（ノルマルヘキサン抽出物質含有量）を大幅に削減し、油脂の腐敗等による悪臭を低減し環境保全につながります。2018年から販売を開始し、食品工場で導入され、その効果が実証されています。今後も、更なる販売促進により、廃棄物の削減に貢献していきます。

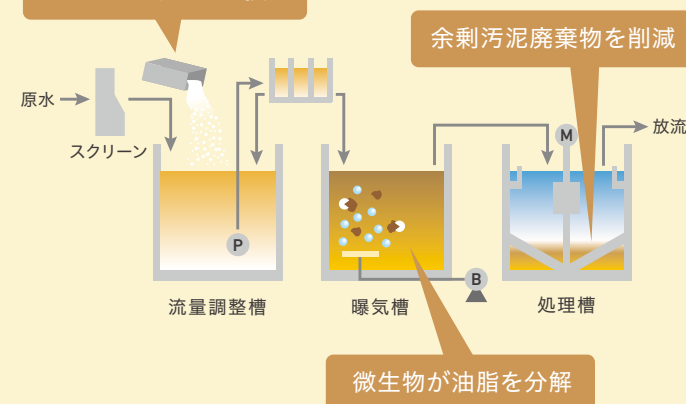


事業内容

音や振動を吸収する遮音材と塩ビ管を一体化した防音排水管等を取り扱い、戸建てからマンションまで幅広く対応。住環境の改善や施工の手間・時間削減にも力を入れ、油脂を分解する微生物製剤も提供しています。

住設・建材事業が取り扱う油脂分解微生物製剤「オイルバニッシュ」は新規酵母を配合した微生物製剤で、食品工場等の排水に含まれる油脂を強力に分解します。これにより油脂廃棄量を大幅に削減し、廃棄費用の削減や現場の環境改善に貢献します。こういった環境にも人にも優しく、安全性が高い製品・サービスの開発に努め、より多くの方にご活用いただけるよう、積極的に取り組んでいきます。

オイルバニッシュを投入



事業別概況

産業タイヤ事業

製造や物流を支える多様な製品・サービスを提供し、
よりスマートで持続可能な社会の実現をめざす

産業タイヤ事業では主に自動車産業や半導体産業といった、高度な技術が求められる製造現場で使われる、高性能、高品質なウレタン車輪を提供しています。走行時、車輪に高い負荷がかかるテーマパークのジェットコースターにも製品が採用されており、強度や耐久性、動的性能について、市場から高い評価を得ています。

近年、製造現場における自動化が加速していることに加え、EC市場の急速な拡大を背景に物流倉庫における効率化ニーズが高まり、ウレタン車輪を使用する環境が急成長を続けています。同時に、お客様の製品の耐久性、耐摩耗性に対する品質要求もこれまで以上に高まっており、ニーズに対応する製品開発を急ピッチで進めています。現在、タイヤ始動時の摩擦抵抗を極力抑えることで、機器・装置類の使用電力量削減に貢献する、省エネウレタン車輪の開発に注力しており、今後、お客様への販促活動を展開していく予定です。

これまでの製造工程を徹底的に見直すことで、生産性のさらなる向上と環境負荷低減に取り組んでいます。例えば、ウレタンの硬化に必要な加熱時間を短縮することで、工場全体のエネルギー使用量が低減し、CO₂排出量の削減にもつながります。また、より革新的な取り組みとして常温で

硬化するウレタン素材の開発や現在使用している化石燃料由来の原料を、将来的に100%植物由来の原料へと置き換えるための研究を進めています。

産業タイヤ事業においても将来的なスマートファクトリー化を掲げており、その第一段階として2025年度に、ERPの刷新に着手する予定です。これにより情報の一元管理が可能となり、製品のトレーサビリティをより確実に確保できるようになります。加えて、お客様からのお問い合わせに対して

低燃費ウレタン車輪の開発

フォークリフトに使用される一般的な材質のウレタン車輪と比較して、消費電力を低減できる環境配慮型ウレタン車輪を開発しました。この製品はAGV（無人搬送車）等、各種搬送装置においてモーターへの負荷軽減が期待され、省エネルギー化に貢献します。さらに、制動性能においてもこれまでの標準的なウレタン車輪と同等であり、安全性を損なうことなく持続可能な運用が実現します。

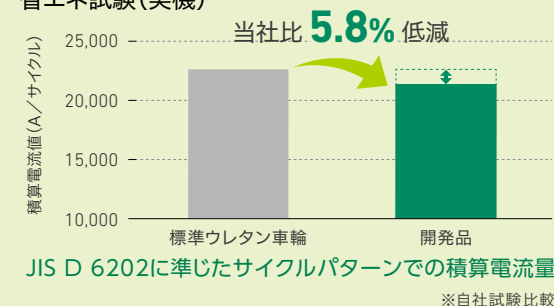
事業内容

熱硬化性ウレタンの中でも注型ウレタンを扱っています。安心・安全な走行に必要な不可欠なウレタンの接着性は他に負けないアドバンテージを持っており、マテハン機器や遊戯機器に多く使用されています。

も迅速な対応が可能になる等、顧客サービスの向上にも大きく貢献するものと考えています。

米国や欧州をはじめ、世界的に物流ロボットの導入が急速に拡大しており、当社が提供するウレタン車輪も需要の拡大が十分期待できます。このような背景を踏まえ、シーシーアイグループとしてグローバル市場の開拓を視野に入れながら、高品質な製品を安定供給するスマートファクトリー化の早期実現に取り組んでいきます。

省エネ試験（実機）



脱炭素・脱石油をテーマに 未来を拓く環境配慮型製品を追求

研究開発部は次世代を担う新たな技術の研究開発と各事業が円滑に戦略を推進するための支援を担っています。現在、取り組んでいる研究の多くは、実用化までに長い時間を要しますが、社会課題の解決に貢献する革新的な技術の確立をめざし、継続的な研究開発を進めています。

「研究助成プログラム」を継続的に実施しており、幅広い観点から研究テーマを選定し、若手研究者や学生の支援を行っています。この他にも機能性植物や微生物関連の研究について外部と協働しながら進めています。また、地域貢献の一環として国立の研究所や地元の農園とともに、農作物の新たな品種を開発する等、持続可能な農業という社会課題

に取り組んでいます。

加えて、鉱油によって汚染された土壌中の油脂を分解する等、土壌改良に貢献する微生物製剤の開発にも注力しています（詳細についてはP18）。微生物を使った分解方法は、他の浄化方法と比べて環境負荷が少ないため、工場跡地の再利用や汚染された土地の浄化等、様々な用途での利活用が期待できます。現在、実用化に向けた実証実験の準備を進めている段階です。

これまで新たな基礎技術の研究開発に重点を置き活動していましたが、より市場の動向やお客様のニーズに即した研究開発を推進するため、現在、グループの各事業との連携を

強化しています。市場のニーズやトレンドを見ながら、比較的ショートスパンで製品化に結び付けるテーマを選定。具体的には「制振系」「冷却系」の2つのカテゴリーにおいて本格的な市場調査、技術動向に関する調査を開始しています。

地球温暖化をはじめとする地球環境の急激な変化に対し、石油資源への依存度を低減し、脱炭素社会を実現することは、現代社会が真剣に取り組むべき課題であると認識しています。今後も、化学メーカーの研究開発部門として、「化学は世のため、人のため。」を具現化し、社会に貢献する革新的な製品の開発をめざしていきます。

研究開発助成プログラムの実施

シーシーアイは、新規事業の実現につながる新しい価値を若手研究者の方とともに生み出すことをめざし、そのために当社事業と結びつきの強い分野において、研究成果をもとに将来の事業化をめざす研究、および基礎的・萌芽的研究を中心に狭い視野にとらわれないチャレンジングな研究に助成を行っています。

2024年度
採用テーマ件数
(名古屋大学、岐阜大学)

5件

地元特産の新品種の開発

■イチゴの品種改良

シーシーアイでは、地元の特産となる野菜や果物の新品種を作出するための研究を行っています。一般的には10年以上かかる品種改良ですが、国立研究開発法人理化学研究所と協力して短期間で育種可能な重イオンビーム照射*という方法で品種改良を行っています。2022年から地元の農園とも協力しイチゴの品種改良を行っています。これまでに約500種類の新品種候補の評価を行い、既存の品種より美味しいイチゴができました。今後は、野菜や他の果物の品種改良を行っていく予定です。

*重イオンビーム照射：加速器で高速に加速された炭素イオンやアルゴンイオン等重イオンビームを植物に照射することで、自然界と同じ原理で新しい品種を短期間で作出できます。



地元の農園と協力した
イチゴの栽培

収穫したイチゴ

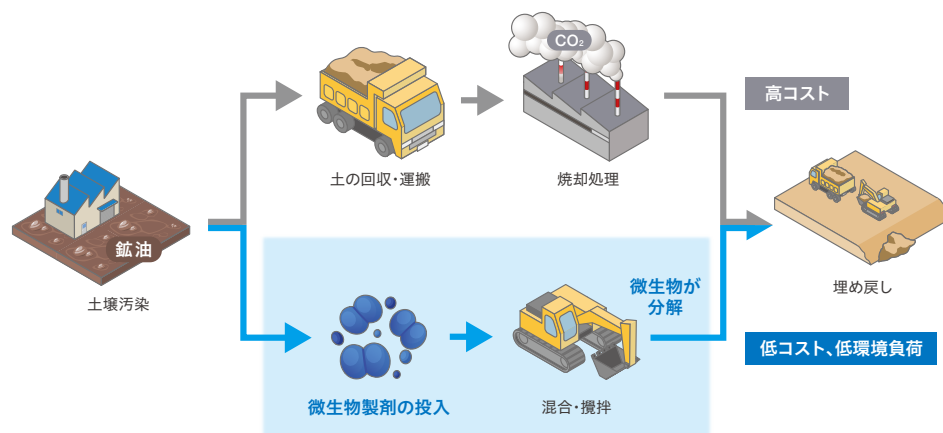
岐阜県の特産となる品種を開発し、
地域活性化に貢献します

CASE

鉱油によって汚染された土壌を 高効率で浄化できる微生物を単離

工場やガソリンスタンドの跡地では、漏出した鉱油によって土壌が汚染されている場合があります。土地を有効活用するためには、低コストで汚染を浄化する方法が求められます。様々な浄化方法がありますが、微生物を用いて分解する方法は最も環境負荷が低く、シーアイでは、微生物の単離や製剤化の技術を持っており、植物油を分解する微生物の開発で培った技術を活かし、鉱油を高効率で分解する微生物を単離しました。

土壌の浄化・再利用

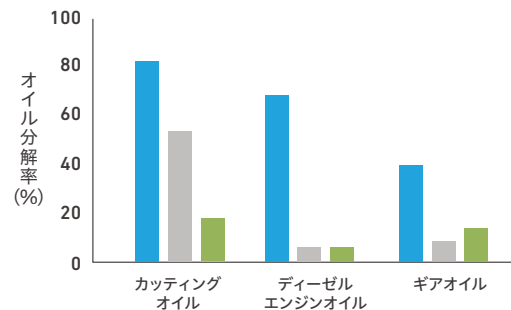


技術開発の歩み

Step 01	対象汚染物質の選定	土壌汚染の原因である 鉱油 をターゲットに選定
Step 02	微生物スクリーニング	全国の土壌から 鉱油を分解できる微生物 を単離
Step 03	分解力評価	微生物が持つ 鉱油 に対する 分解力 を評価
Step 04	微生物製剤の作製	微生物が 長期間生存 できるよう製剤化 取組中
Step 05	フィールド試験	汚染された土地での分解試験を実施

鉱油に対する分解力評価の結果

■ シーアイ単離微生物 ■ 他社品A ■ 他社品B



単離した微生物は、他社品より高い分解力を持っていることを確認

技術開発を通して、汚染された土地の再利用に貢献します

サステナビリティの取り組み

公正で誠実な企業活動を通じて「持続可能な社会の実現」と「企業価値向上」の両立を図り、企業としての社会的責任を果たしていきます。

サステナビリティ基本方針

シーシーアイグループ
サステナビリティ基本方針(抜粋)

私たちシーシーアイグループは、企業理念に基づき、すべてのステークホルダーと責任ある対話を行い、公正で誠実な企業活動を推進し、「持続可能な社会の実現」と「企業価値向上」の両立をめざし、社会的責任を果たします。

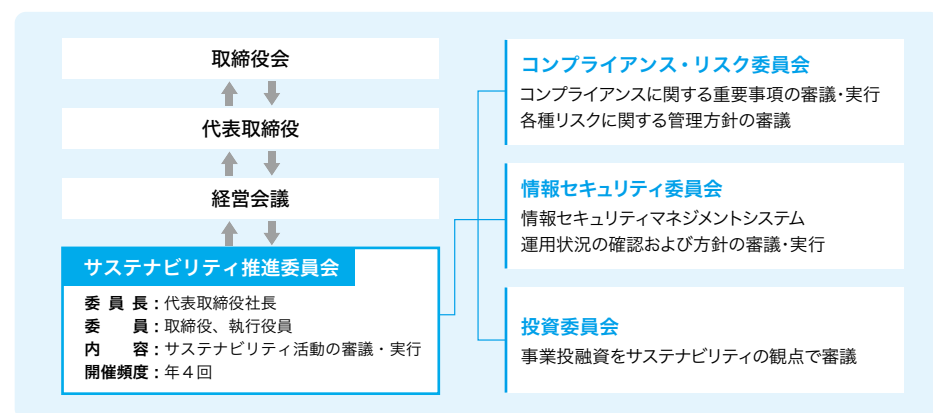
WEB シーシーアイグループ
サステナビリティ基本方針(全文)

サステナビリティ推進体制

シーシーアイグループは、サステナビリティ活動を推進するにあたって、2022年4月に代表取締役社長を最高責任者とする「サステナビリティ推進委員会」を設置し、その下部組織として「コンプライアンス・リスク委員会」「情報セキュリティ委員会」および「投資委員会」の専門委員会を設置しました。定期的に委員会を開催し、各種の活動に取り組んでいます。

委員会の実施

- グループのサステナビリティに関する活動方針策定
- ESG、SDGs活動のモニタリング
- ステークホルダーへの情報発信と対話
- 社内浸透
- 取締役会への報告



社外からの評価・認証の取得

- 国際的な評価機関であるEcoVadis 社によるサステナビリティ評価(2025年1月)において「Bronze Medal」を獲得
- 2023年「ぎふSDGs推進パートナー」登録制度にて「ゴールドパートナー」認定



教育の実施

シーシーアイは、サステナビリティ経営を推進していくため、世の中の動向や当社の取り組み状況を知り、意識の向上に取り組んでいます。

- サステナビリティ基本知識研修
- サステナビリティ推進担当ミーティング



サステナビリティ基本知識研修の様子
(2024年4月)

参加型社会貢献活動の実施

シーシーアイは、従業員のサステナビリティ意識向上を目的として、様々な地域・社会貢献活動に取り組んでいます。

- 工場周辺の清掃活動を通じた地域環境の美化
- ペットボトルキャップの回収による、児童への医療支援
- 使い捨てコンタクトレンズ空ケースの回収による、就労支援団体への協力
- 本・おもちゃ・ぬいぐるみの回収を通じた、子どもの学習機会の支援
- 日用品の回収による、生活困窮者への支援活動
- 令和6年能登半島地震への支援(マッチングギフト)

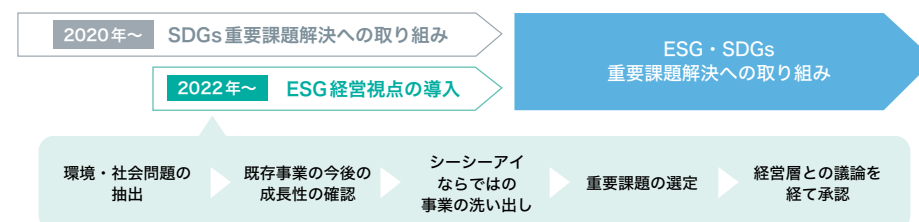


関工業団地内清掃活動の様子(2024年12月)

シーシーアイグループのマテリアリティ

シーシーアイは、環境・社会・経済の変化や社会的課題を的確に把握、分析しサステナビリティ活動におけるマテリアリティ(重要課題)を選定しています。これらの課題を事業活動と結び付けるため、各部門のKPIとして設定し、世界の人々に安心・安全・快適な環境を提供し続けていきます。

ESG優先課題特定のプロセス



重要課題およびKPI

達成率の凡例 ◎:達成率100%超 ○:達成率80～100% △:達成率80%未満

活動領域	重要課題	ESG	優先課題(2030年度までの具体的な取り組み)		2024年度KPIの達成状況	関連ページ(24年度実績)
事業活動	安心・安全・快適なモビリティ環境の提供	E	次世代モビリティ向け製品の開発	メンテナンス軽減製品の開発	△	P.22
	静かな空間の創造	E	新たな技術を駆使した環境配慮製品、サービスの提供	制振・吸音材導入による住環境の向上	○	P.15
		E		制振・吸音材導入による住環境以外の環境の向上	△	P.15
		E		オイルバニッシュ(油脂分解微生物製剤)の拡販	△	P.15
	サーキュラーエコノミーへの移行	E	使用済製品の回収～再資源化のビジネスモデルの構築	廃棄LC、BF量(国内)の10%(1万kL)を回収、再資源化し活用	○	—
		E	リサイクル可能な素材への切り替え(廃棄物の削減)	使用材料の見直し・切り替え	○	P.14
		E		リユース事業の拡大	△	P.22
		E		工場廃液量(2019年)の50%を再資源化(削減を含む)し活用	△	P.23
		E		プラスチック削減の取り組み	△	P.10
		E	脱石油由来原料製品の開発	量産化技術の確立	△	—
	健康、生活の質向上	E	特定化学物質、環境負荷物質の管理および使用の削減～使用ゼロ	工程等の見直しによる特定化学物質・環境負荷物質の使用ゼロ	△	P.23
		S		環境問題を引き起こす事故・汚染0件	○	—
全社活動	健康、生活の質向上	S	スポーツ振興等を通じて地域社会貢献活動の推進	文化・芸術・スポーツ活動への協賛	○	P.25
	気候変動への対応	E	Scope1、2対象CO ₂ 排出量 2030年度に2019年度比30%削減	CO ₂ 削減エネルギー対策プロジェクト活動	○	P.22 P.31
		E	Scope3の算定、監視	グローバルのScope3 算定を実施	○	—
	働きがい向上および企業活性化	S	従業員エンゲージメントの向上	エンゲージメントサーベイのスコア向上 多様性の実現 職場環境改善、制度の見直し	○	P.27 P.31 P.32
		S	業務可視化とデジタル化による生産性向上、ペーパーレス化	デジタル化による生産性向上、ペーパーレス化を推進	○	P27
	人権尊重に対する取り組み	S	人権DDプロセスの構築	CSR調達ガイドラインに則した、人権DDプロセスの構築	○	P28
		S	サプライチェーンにおける人権の取り組み	サプライチェーンにおける人権の取り組みを推進 人権SAQ回答率100%	○	P28
	コンプライアンスの強化	G	コンプライアンスに対する取り組み	コンプライアンス研修受講率100%	○	P32
		G	情報セキュリティ体制の強化	重大セキュリティインシデント0件	○	P32

環境

Environment

シーシーアイグループは、「2050年カーボンニュートラル」に向けて、温室効果ガスの削減、環境に配慮した製品の提供やシーシーアイグループならではの技術を活かし、地球環境の保護活動に積極的に取り組んでいます。

基本的な考え方

シーシーアイグループは、企業理念に基づき、当社が社会に影響を与える立場であることを理解し、地球環境の保護、人々の健康を確保、持続可能な社会の実現を目標に、継続的に取り組みを推進します。

環境

環境マネジメントシステム

シーシーアイグループは、全従業員が共通の認識をもって環境対策に取り組むべく、ISO14001に基づく環境マネジメントシステムを導入し、環境への取り組みについて計画し、実施・レビューを行い、継続的な改善を進めています。認証未取得の生産拠点においては、認証の取得に努めています。

 国内外における
ISO14001
認証取得 **8** 拠点 (2025年3月時点)

気候変動に対する戦略

気候変動によるリスクと機会

シーシーアイグループは、TCFD提言に基づき1.5℃シナリオ、4℃シナリオにおけるシナリオ分析を実施しました。1.5℃シナリオではIEA NZEやIPCC RCP1.9等を参照し、4℃シナリオではIEA STEPSやIPCC RCP8.5等を参照しました。シナリオの分析の結果、次のような気候変動に関するリスクと機会を特定し、その財務影響を算定しました。リスクの最小化、機会の最大化に向けた対応策を検討の上、適切に実施していきます。

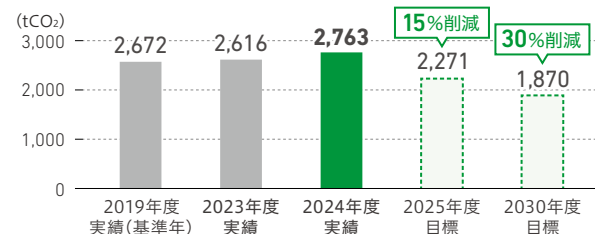
■ 気候変動によるリスクと機会 一覧表

種 類	内 容	時間軸	重要度	項 目	対 応 策
移行リスク	炭素税の導入により炭素集約度が高い原材料の調達コストが上昇する	中期	大	温室効果ガスの削減	■ 省エネルギー活動や再生可能エネルギーの利用によるScope1、2の削減 P.22 ■ サプライヤーエンゲージメントによるScope3の削減
物理リスク	異常気象の甚大化により、製造拠点が停止することで生産が遅延し、売上が減少する	中期	中	異常気象対応	■ 事業継続計画 (BCP) マニュアルの策定と事業継続管理 (BCM) 体制の構築 P.30 ■ 定期的な見直し・訓練の実施 P.30
機会	環境配慮型製品の開発・販売により市場の優位性を確立することで売上が増加する	中期	中	環境配慮型製品の開発	■ 石油由来原材料からバイオ由来原材料への変更 ■ 環境に配慮した容器包装への転換 P.14

気候変動への取り組み

温室効果ガスの削減

シーシーアイは、温室効果ガス排出量削減の取り組みとして省エネルギー活動や再生可能エネルギーの利用を推進しています。Scope1、2における自社CO₂排出量を2030年度までに2019年度比で30%削減するという中期目標を設定しています。活動を促進するためプロジェクトを発足し、生産活動における排出量削減のためアクションプランを設定し、排出量削減に取り組んでいます。また、2022年度よりグループ会社においてもCO₂排出量の算定を行い、今後もシーシーアイグループ全体で取り組みを進めていきます。

シーシーアイのCO₂排出量の目標および実績 (Scope1、2)

※算定方法の変更に伴い、比較の一貫性を保つため、2023年度のデータについても新たな算定方法に基づき再計算しています。

※2024年度より、ガソリン使用によるCO₂排出量を「一次データ」を基にしたデータにて実績値を算出しています。

【CO₂排出量削減に向けた取り組み
再生可能エネルギーの導入】

日本ケミカル工業では、再生可能エネルギーの積極的な導入と省エネ対策の徹底に取り組んでいます。2022年4月より本社使用電力の「再生可能エネルギー化100%」を達成、本社全体で排出されるCO₂排出量の80%を削減することができました。更に、自社工場で排出される「CO₂排出量実質ゼロ」をめざし、「世界の自社工場からCO₂排出量実質ゼロ」を掲げ海外グループ会社に展開していきます。

▶CO₂排出量削減に向けた主な取り組み

- ・LCA算定勉強会の開始
- ・社内カーボンプライシング(ICP)の導入
- ・全社用車のハイブリット化(2025年まで)
- ・作業工程の見直しによる設備稼働時間の削減

製品の環境貢献

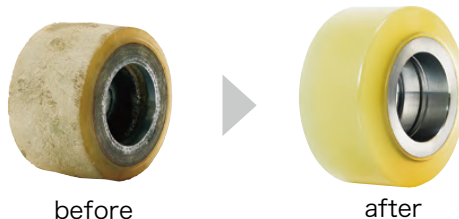
基本的な考え方

シーシーアイは、今まで培ってきた技術を活用し、環境に配慮した製品の開発に取り組んでいます。

環境配慮型製品の開発

【長寿命ウレタンタイヤ「ウルトランス」巻き直し】

産業タイヤ事業では、長寿命ウレタンタイヤ「ウルトランス」の巻き直しを行っています。巻き直しとはウレタン車輪のホイール部分を再利用し、新しいウレタンを貼り替えることで車輪の機能を復活させる技術です。これにより、車輪を丸ごと交換する必要がなくなり、ホイール部分の製造と廃棄にかかるコストを削減し、環境負荷の軽減に貢献します。今後も耐摩耗性に優れた製品や、高耐久で長く使える製品の開発を行い、廃棄物の削減を図っていきます。



巻き直しの実績

3,656本

(2024年度)

【燃料添加剤の開発】

日本ケミカル工業では、燃料添加剤の開発を行っています。燃焼室内では燃料の不純物や不完全燃焼によるすす等の影響で堆積し、エンジンに悪影響を与える汚れ(デポジット)が発生します。エンジン清浄剤は、インテークバブル・インジェクター・スパークプラグ・燃焼室等に固着した油溶性と水溶性の汚れを、2つの有効成分で一度に除去することに成功しました。環境面では、排気ガス浄化・燃費回復に貢献し、燃料品質に課題のある新興国市場においても、当社製品の高い適応性と信頼性を活かし、持続可能なモビリティの実現をめざし、販売拡大を推進していきます。



燃料添加剤

【グリーストラップのコンパクト化】

下田エコテックでは、業務用の厨房に設置が義務付けられている「グリーストラップ(油脂分離阻集器)」の設計・製造・販売を行っています。2022年10月に販売開始した新型グリーストラップ(NSシリーズ)は、従来品より設置面積最大33%削減・槽内容積最大46%削減というコンパクト化に成功し、材料使用量の削減を実現しました。一方で、従来品同等の槽サイズと比較して、油の阻集量を最大47%アップできました。



化学物質管理体制

化学物質管理体制の構築

シーシーアイは、化学物質の審査および製造等の規制に関する法律、特定化学物質の環境への排出量の把握等および管理の改善の促進に関する法律、労働安全衛生法、毒物および劇物取締法等多岐にわたる法令を順守しています。また、化学物質による人、環境への悪影響を未然に防ぐため、各部門と協力し合い、化学物質の管理体制の構築、作業工程の見直し等による環境負荷物質の使用量削減に取り組んでいます。

サーキュラーエコノミーの実現に向けて

基本的な考え方

シーシーアイグループは、行動規範に基づき、サーキュラーエコノミーの実現に向けて活動していきます。製造過程で発生する廃棄物の削減を図るとともに、リサイクル資源を有効活用し新たな資源投入を抑えた製品生産を推進していきます。また、自社製品の再資源化と活用に向けて取り組んでいます。

廃棄物の抑制

【産業廃棄物の廃棄方法の見直し、分別の徹底による廃棄物の削減】

シーシーアイは、リサイクルができていない産業廃棄物の廃棄方法を見直し、製造過程で発生する産業廃棄物の一部をマテリアルリサイクル化しました。また、製造過程および日常業務で発生する廃棄物の一部を資源としてリサイクルし、分別を徹底することで更なるリサイクル率の

向上を図っています。また、シーシーアイグループでは紙使用量を削減する取り組みも推進しており、今後も廃棄物の削減活動に積極的に取り組んでいきます。



マテリアルリサイクル率
(シーシーアイ)

66%
(2024年度)



紙使用量削減率
(シーシーアイ)

48%
(当社2021年度比)

【端材量の削減】

住設・建材事業では、防音排水管で使用するオレフィン系防音シート材料のサイズ変更を行い、1枚の材料から製品に使用する防音材の割合を増やし廃棄物を削減しました。



原材料使用量

35%削減
(当社2023年度比)

【原料廃棄量の削減】

産業タイヤ事業では、原料投入時のたれ切り時間の見直しを行い、原材料を限りなく有効活用することで廃棄量を削減しました。



原材料使用量

28%削減
(当社2023年度比)

【工場洗浄水の再利用、削減】

カーケミカル事業では、工場内タンクの洗浄水の削減、再利用に取り組んでいます。今後はシーシーアイとして水使用量の削減目標を設定し、継続的な水資源の確保を通じて、持続可能な社会に貢献していきます。



洗浄水削減量

13%削減
(当社2019年度比)

自然共生

環境保全活動

シーシーアイグループでは、地域環境の保全と生物多様性の保護に向けた取り組みとして、従業員によるボランティア活動を通じ、工業団地内や河川、海岸等の清掃活動を定期的実施しています。日本ケミカル工業では、2024年6月に三保真崎海岸の清掃活動に参加し、海岸に漂着したごみの回収を行いました。今後も地域社会との連携を深めながら、継続的な環境保全活動を推進していきます。



三保真崎海岸清掃活動の様子(2024年6月)

社会

Social

シーシーアイグループは、行動規範に基づき、安全を最優先した行動、お客様の満足度の向上に努めていきます。また、地域社会と積極的に交流を行い、事業を活かした活動や社会の課題に応える活動を通して、持続的な社会貢献をめざしていきます。

品質

スマートファクトリーで世界基準の品質を確保

基本的な考え方

シーシーアイグループは、企業理念に基づき、お客様と責任ある対話を行い、お客様の品質要求を超えるように努め、お客様にとって安心・安全・快適な製品・サービスを提供します。

お客様に安心・安全な製品を常にお届けするため、毎月、グローバル品質会議を開催しています。品質管理については、海外の技術供与先や製造委託パートナーも含めたサプライチェーン全体における管理体制を構築。品質の維持・向上にシーシーアイグループとして努めています。現在、国内生産拠点のスマートファクトリー化を進めており、将来的にすべての生産拠点においてERPを刷新し、高度で効率的な品質管理の仕組みをグローバルで構築していきます。

品質保証体制への取り組み

シーシーアイグループは、品質マネジメントシステム(ISO9001)やIATFの認証を取得し、継続的な改善を推進しています。製造現場では作業手順の見える化を進め、お客様のクレームには安全を第一に迅速・適切に対応しています。今後も品質担保の仕組みを強化していきます。

▶品質マネジメントシステム外部認証(2025年3月時点)

ISO9001認証 **10拠点** IATF16949 認証 **5拠点**

教育の実施

シーシーアイは、品質教育を定期的に全従業員に実施しています。製造部門ではコンサルタントとともに、品質意識・生産性向上を目的とした改善活動を行っています。これからも継続的な教育を行い、従業員の品質への意識を高めていきます。

お客様とともに

顧客満足度向上への取り組み

シーシーアイは、顧客満足度を図るために顧客窓口寄せられるお客様の声や定期的に行っている「お客様満足度調査」でのアンケートのご回答を真摯に受け止め、その貴重なご意見を各部門の改善活動へつなげています。また顧客窓口担当者を対象に電話対応マニュアルを整備し、電話対応スキル教育を実施しています。今後も、お問い合わせに対して、より一層のサービス向上に努めていきます。

取引先様とともに

方針

調達に関するコミットメントとして「シーシーアイグループ調達方針」を当社コーポレートサイトで公開しています。

 シーシーアイグループ調達方針

CSR調達の取り組み

シーシーアイは、従来の品質・性能・価格・納入条件を重視した調達活動から自然・労働環境・人権等といったCSR要素も重要視した調達活動に向けて取引先様(サプライヤー)とともに取り組んでいます。事業の持続性に影響を及ぼす可能性のあるリスクを低減することを目的にCSR調達ガイドラインを制定し、取引先様にご理解していただいた上で、サプライチェーン全体に展開しています。また、その状況を確認するため、CSRガイドラインの順守状況や紛争鉱物調査等のアンケート調査(SAQ)を実施し、取引先様とともに事業の持続性を確保しています。

社会貢献活動

基本的な考え方

シーシーアイグループは、企業理念に基づき「地域貢献」「人材育成」「環境保全」「災害支援」の重点分野で役員及び従業員の積極的な社会貢献活動への参画を通して、人々の豊かな暮らしの実現、持続可能な社会への貢献を目指します。

地域貢献

【岐阜県スキー連盟 フリースタイル部】

2023年度より岐阜県スキー連盟フリースタイル部に協賛、2024年度より揖斐郡池田町出身のフリースタイルスキー競技モーグル種目の堀島行真選手(トヨタ自動車所属)、各務原市出身の浅野志織選手(中京大学所属)に協賛し、地元選手や未来を担う子どもたちの育成を支援しています。モーグルは、選手が雪原をジャンプや回転しながら滑走する競技で、速度よりも技の難易度や技術を競うことが特徴です。競技会や体験会にはのぼりや横断幕



締結式の様子(2024年12月)

を掲出、参加賞として当社のロゴ入の景品を提供しました。これからも様々なイベントを企画し、地元スポーツの活性化も願い、活動を盛り上げていきます。

【白川村 企業版ふるさと納税】

2024年度より企業版ふるさと納税を活用し、岐阜県大野郡白川村に寄附を行いました。白川村は岐阜県唯一のユネスコ世界文化遺産「合掌造り集落」を有し、世界中から注目を集めています。しかし現在白川村は人口減少と少子高齢化という深刻な問題に直面しています。今回の寄附は、合掌造りと田園の風景を未来に残すための活動資金として活用されます。今後も文化的財産を保護し、地域活性化に貢献するための活動を継続していきます。

【新入社員による地域清掃活動】

2024年度より新入社員同士のコミュニケーションの活性化と地域社会の環境保全を目的に、新入社員研修の一環としてシーシーアイ(株)本社が所在する岐阜県の鳩吹山と周辺道路のゴミ拾い活動を実施しました。これからも従業員と地域社会との共生を図るために、地域清掃活動に積極的に取り組んでいきます。

鳩吹山清掃活動の様子
(2024年4月)

TOPIC

シーシーアイ・オートモーティブ・プロダクツ(タイ)の活動

2024年7月より地元チョンブリー県のサッカーチームであるYFA football Club様の活動に賛同し、オフィシャルスポンサーとして活動しています。YFAは聴覚障がい者と健常者混合のチームで、地元チョンブリー県の特別支援学校ともサッカーを通じて交流をしています。2024年11月にはYFA主催のフットサル大会にシーシーアイチームとして初めて参加しました。これからも地域社会との交流を通じた貢献活動を続けていきます。



フットサル大会の様子(2024年11月)

ユーエスシーの活動

2024年度よりこども食堂のイベントに参画し、イベントのボランティア活動の一環として来場した子どもたちに当社で所有している業務用ポップコーンマシンで作ったポップコーンを無償で提供する活動を実施しています。こども食堂は年々増加しているため、今後も当社の営業支店地域にあるこども食堂のイベントに積極的に参画し、事業を通じて子どもたちの心身の健やかな育成を支援していきます。

「駄菓子屋食堂」イベントの様子
(2024年8月)

▶主な協賛先一覧(2024年度)

▶モータースポーツへの支援

- ・ TOYOTA GAZOO Racing
- ・ ホンダモビリティランド
- ・ ホンダモビリティランドレーシングスクール
- ・ AUTOBACS RACING TEAM AGURI

▶地域スポーツへの支援

- ・ 岐阜県スキー連盟 フリースタイル部
- ・ モーグル堀島行真選手
- ・ モーグル浅野志織選手
- ・ プロバスケット「岐阜スウープス」
- ・ プロサッカー「FC岐阜」

- ・ モトクロス土屋元希選手
- ・ ふどうの森トレイルラン
- ・ 高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン
- ・ 岐阜県サッカー協会4種(小学生チーム)
- ・ SHIBATA DRIFT RACINGTEAM
- ・ 刃物のまち関シテイマラソン

▶学生への支援

- ・ 自動車技術会学生会フォーミュラ
- ・ 岐阜大学フォーミュラ
- ・ 名古屋大学フォーミュラ
- ・ 岐阜大学工学部技術紹介プロジェクト

▶その他支援

- ・ 関商工会議所 創立70周年記念イベント(能・狂言)
- ・ 関市民花火大会
- ・ ぎふ長良川花火大会
- ・ ぎふチャンまつり
- ・ 祐の会(お雛子、長唄の会)

企業理念を実践へ。2つの共創プロジェクト

シーシーアイでは、企業理念を2023年に再構築してから、私たちのパーパス(存在意義)の実現をめざし、全従業員一人ひとりが企業理念を理解し、共感し、実際の行動に移すための様々な取り組みを実施しています。これらの取り組みを通じて、従業員自身が成長し、会社が成長し、お客様や社会に貢献できる企業をめざします。

企業理念

Our Purpose 私たちの存在意義

「新しい」を共創し、
世界に安心・安全・快適を提供します

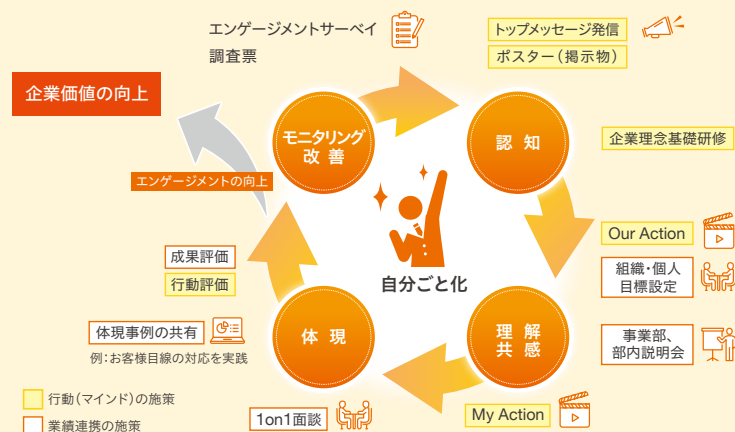
Our Values 私たちの大切な価値観

Change
変革への挑戦

Create
お客様目線で
創意工夫

Innovate
全員で経営革新

企業理念の実践を支える取り組み



プロジェクト

企業理念を新しい世代の人たちにつなげていく。人材の育成と組織・風土づくりの一環として2024年度は部署を横断するプロジェクトを実施しました。

会社、部署の垣根を超えたグループビジョン策定プロジェクト

2024年10月「グループビジョン策定プロジェクト」を発足し、国内グループ会社の中堅・若手社員27名が参加し、2040年をターゲットとしたグループの中期的な方向性を検討しました。このプロジェクトでは、メガトレンドや未来情報、2040年の事業環境の変化、会社の姿、各社間および他事業とのシナジーについて整理・検討しました。

ありたい姿を実現するために必要な要素を創出するプロセスでは、チーム毎に何度も議論を重ね、最終的には経営層に向けて2040年のありたい姿のストーリーと事業・施策カードを使用し、各チームの想いを発表しました。このプロジェクトを通じて、グループ全社の視点で各会社の現在の強みや今後の課題を明確にするとともに、長期ビジョン策定の手法を学ぶことができました。またバックグラウンドや風土が異なるメンバーと同じプロジェクトを経験することで、グループ間の一体感を醸成することができました。(グループビジョンは2025年度中完成予定)



会社、部署混合の4チームに分かれワークショップを実施



経営層に向けた発表会の様子

若手社員10名による社員旅行企画プロジェクト

2024年10月「社員旅行企画プロジェクト」を立ち上げ、若手社員10名が2025年に実施する社員旅行を企画しました。社内のニーズを調査したうえで、社員旅行の目的を「交流を広げ、『共創』の力を高める」と定め、「Borderless Challenge ~あなたが創るグループの輪~」をテーマに企画を推進しました。

計画立案から企画資料の作成、プレゼンテーションに至るまでのプロセスを通じて、メンバーは実践的なビジネススキルを磨きました。業務上の交流が少ない社員同士のコミュニケーションが活性化されたことで、今後の業務連携がより効果的に進むことも期待されます。本プロジェクトは、若手社員にとって成長と挑戦の機会となるとともに、企業理念の浸透と実践を促進する重要な取り組みとなりました。



経営層へプレゼンテーションを実施



社員旅行の様子

社員とともに

階層ごとの教育に加え、
個々の能力開発も支援
柔軟で働きやすい職場環境を整備

基本的な考え方

シーシーアイは、企業理念に基づき、教育制度を拡充させ人材育成に取り組んでいます。また行動規範に基づき、全従業員が仕事と生活の調和を図り、個人の能力を最大限に発揮できる職場をめざしていきます。

シーシーアイでは、新入社員から管理職まで、階層ごとに体系化された教育制度を整備しています。また、資格取得等、社員の自発的な学びを支援する仕組みの他、退職者の復職制度も整備しています。2024年度には、従業員の多様な働き方を推進するべく育児・介護規程を変更。テレワークの推進等、育児世代が男女の別なく働きながらキャリア形成ができるよう、環境整備に尽力しています。また、毎年従業員満足度調査を実施しています。これは安全・安心で快適な職場環境の維持向上をめざすもので、調査の中で挙げられた意見に対してフィードバックを行い、継続的な改善に取り組んでいます。



人材育成

シーシーアイは、教育制度の拡充の他、従業員が業務に関する資格を取得することを奨励するため資格取得報奨金給付制度を定めており、能力開発およびキャリアアップの機会を公平に提供しています。

■研修一覧

階層	階層別研修	テーマ別研修	部門別研修	自己啓発
管理職	新任部長研修 新任グループ マネージャー研修	企業理念 サステナビリティ 人権 行動規範		
中堅社員	新任リーダー研修 昇格時研修	コンプライアンス 安全衛生 環境・品質 情報セキュリティ 避難訓練	各部門で 実施	社外セミナー 社内勉強会 ビジネス英会話研修 eラーニング
若手社員 新入社員	3年目研修 新入社員研修	ハラスメント LGBTQ* メンタルヘルス 5S 安全運転 救命講習		資格取得報奨金 給付制度
内定者	内定者研修（入社前）			

※LGBTQ：性的マイノリティの総称

働きがいのある職場づくり

【働きがいのある職場づくり】

シーシーアイは、スーパーフレックスタイム制や副業・兼業制度を導入、2023年度には退職した社員に対する再雇用制度（ジョブリターン制度）を導入し、何らかの事情で当社を退職した社員の復帰を可能としました。2020年度にはテレワークの導入、2022年度には更なるシステムのクラウド化を実施し、テレワークが可能となる職種を広げました。また場所にとらわれない柔軟かつ効率的な働き方を推進するフリーアドレススペースも導入し、従業員が安心・快適に働ける環境整備を進めています。

【育児と仕事の両立】

シーシーアイは、子育てをする従業員に対し、法定以上の育児休業制度や短時間勤務制度を導入しています。2022年度には育児目的休暇を子が3歳の年度末まで取得期間を延長し、男性でも育児に参加しやすい体制を構築しました。

DE&I

【LGBTQに関する取り組み】

シーシーアイは、LGBTQを正しく理解するために全従業員を対象に外部講師による研修を実施し、2022年度からアライを募り、活動を開始しました。レインボーバッジを配付し、アライの見える化を推進しています。これらの取り組みが評価され、2022年度より3年連続PRIDE指標（LGBTQへの取り組みの評価指標）でブロンズ認定されました。



アライ
(LGBTQを
理解し支援する人)

133人
(2025年3月時点)

デジタル化による生産性向上

シーシーアイは、全部門の業務のデジタル化、自動化を推進し、会社全体の生産性向上および従業員の働きやすい環境づくりに取り組んでいます。2018年度より工場のスマートファクトリー化の活動を開始し、製造工程の可視化や製造指示書・品質チェック等をデジタル化しました。また2020年度より基幹システムを刷新し、品質向上、生産性向上を進めています。



業務デジタル化
等による
労働時間の削減

1,446h
(2024年度 社内で算出した暫定値)

人権の尊重

基本的な考え方

シーシーアイグループは、企業理念に基づき、時代に合わせてビジネスモデルを変えながら、これまでにない付加価値を絶えず社会に提供するために尽力しております。私たちは、人権尊重を事業継続のために果たすべき最重要の責務の一つと位置づけ、「シーシーアイグループ人権方針」を定め、役員及び従業員一体となって取り組みを推進します。

方針

人権に関するコミットメントとして「シーシーアイグループ人権方針」を当社コーポレートサイトで公開しています。

[WEB](#) シーシーアイグループ人権方針

人権デュー・ディリジェンス

シーシーアイグループは、2022年より国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」に基づき人権デュー・ディリジェンス※を開始しました。

■ 是正措置

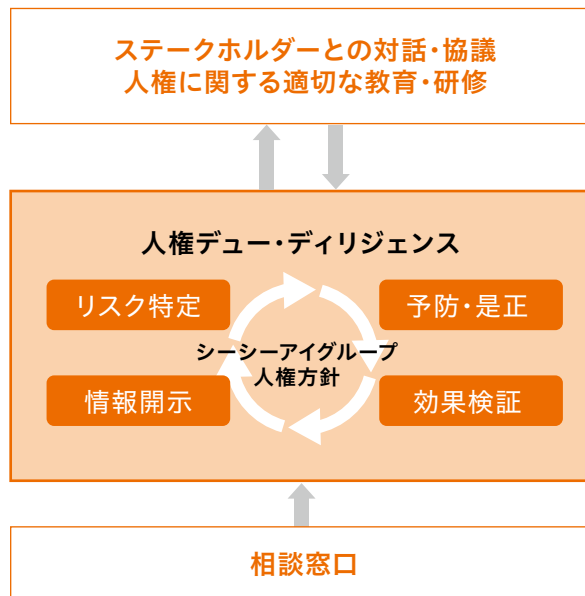
2023年度に実施したアセスメントに基づき、協力会社に対して、労働災害発生時のルール整備等の是正措置に取り組みました。また、グループ会社においては、グループ全体での水準をあわせ人権リスクを低減するために、人権に関する規程類や従業員の声をくみとる機会の整備を進めました。

■ アセスメント

2024年度は国内外のグループ会社および一部の協力会社20社から自己評価調査票(SAQ)に回答いただき、リスクの調査・分析を行いました。(SAQ回答率:100%)今後も、特定した課題について、対応を進めていきます。

※人権デュー・ディリジェンス:人権への負の影響を特定、防止、軽減し、どのように救済するかという継続的なプロセス

■ 取り組みの全体像



教育の実施

シーシーアイは、2021年より毎年、国内のすべての役員と従業員を対象に、シーシーアイがビジネスと人権に取り組む背景や起こりうる人権リスクの理解およびハラスメントの防止を目的に、外部講師による研修を実施しています。(受講率:100%)更に管理職には人権デュー・ディリジェンスの取り組み結果を共有し、当社が直面する課題、企業としてのあるべき姿を理解し、ともに取り組むことを推進しています。

相談窓口の設置

国内外のすべてのグループ会社の従業員が利用できる相談窓口を設置しています。また、定期的に研修等を通じて相談窓口の周知に努めています。すべての相談・通報については、事実関係の調査を行い、相談・通報者には調査結果を回答するとともに、必要に応じてその是正や再発防止に取り組んでいます。

労働安全衛生

基本的な考え方

シーシーアイグループは、企業理念に基づき、安全と健康をすべてにおいて優先して、取り組みを推進します。

労働安全衛生への取り組み

シーシーアイは、「安全で安心な職場をつくる」を重点課題に掲げ、取り組みを推進しています。労働災害リスクの低減・管理のため、労働安全衛生マネジメントシステム(ISO45001)を全拠点に構築し、安全・防災標準を策定しました。また重傷につながるリスクを軽減するために、適切な作業手順の整備、保護具着用の徹底等の対策や経営層も工場内安全巡回を実施しています。今後も、グループ全体での安全基準の制定、従業員の安全意識の向上を目的とした継続的な教育を実施し、労働災害リスクの低減に努めていきます。



経営層による工場内安全巡回の様子
(2025年4月)

TOPIC

EHS点検の実施

シーシーアイは、従業員の安全と健康を守り、安心して働ける職場環境の実現をめざして、EHS点検(環境・健康・安全)を2023年度より中華圏の海外グループ会社で実施しています。2024年度は国内2工場およびシーシーアイ・オートモーティブ・プロダクツ(タイ)にも活動を展開しました。実際に現地の工場を訪問し、安全衛生や環境に関する法令や規定の順守状況、現場に危険な箇所がないかな等を点検表に基づいて確認を行いました。特定された課題については優先順位を定め対応を進めています。今後も全社を挙げて安全で安心な職場づくりをめざしていきます。



EHS点検の様子(2025年1月)

ガバナンス

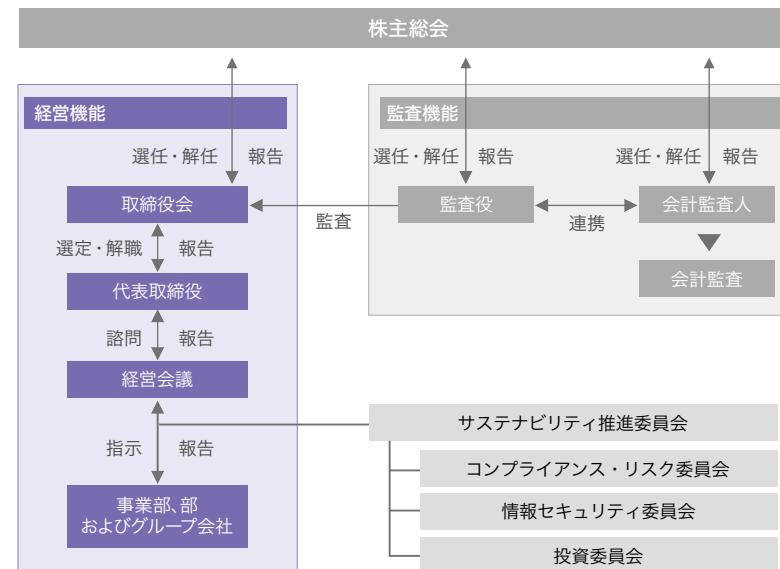
Governance

シーシーアイグループは、経営の透明性を高めながら監督機能の強化と意思決定の迅速化を図り、コンプライアンスを確保することをコーポレート・ガバナンス上の最重要課題と位置づけています。コーポレート・ガバナンス体制の強化・充実を推進することにより、企業価値の向上をめざしています。

コーポレート・ガバナンス

シーシーアイは、従業員をはじめ、株主様・お客様・取引先様・地域社会などすべてのステークホルダーを意識した、透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定ができるよう、右図のとおりコーポレート・ガバナンス体制を構築しています。最高経営意思決定機関である取締役会は、法令に定められた事項や経営に関わる重要事項の決定、取締役の監視機関として位置づけています。一方で公正・独立の立場から社外監査役を含めた、監査役が取締役の職務執行、経営の監査を行う体制を構築しています。

▶コーポレート・ガバナンス体制図



コンプライアンス

基本的な考え方

シーシーアイグループは、「行動規範ガイドブック」を作成し、法令順守にとどまらず、全従業員が一人ひとり高い倫理観をもって行動することで、コンプライアンスの徹底に努めています。

法規制対応

シーシーアイは、法規制の新設・改正の対応について、漏れなく正しく行うことを目的に、顧問弁護士と関連部門での定例ミーティングを毎月開催し、新設・改正情報、当社の対応や進捗状況を共有し、管理する体制を構築しました。今後も管理体制の強化に努めています。

内部通報

シーシーアイは、不正行為の未然防止、早期発見および是正を図り、コンプライアンス経営を推進することを目的として、内部通報システムを導入しています。従業員からの相談事や内部通報を受け付ける社外・社内の窓口を設置し、コンプライアンス・リスク事務局が適切に処理します。



重大な
法令違反

0 件
(2024年度)



通報件数
重大な法令違反や
不正行為に関わる通報

0 件
(2024年度)

コンプライアンス**教育の実施**

シーシーアイグループは、正しい知識の定着、意識の醸成を図るため、行動規範研修や外部講師によるコンプライアンス研修、ハラスメント研修を継続的に実施しています。今後も従業員の更なる意識の向上、浸透を図っていきます。

リスクマネジメント**事業継続計画**

シーシーアイは、緊急時対応計画(ERP)・危機管理計画(CMP)・事業継続計画(BCP)マニュアルを策定し、事業継続管理(BCM)体制を構築しています。毎年、定期的な見直し・訓練の実施を行うことで有事の際、誰もが動ける備えができるよう取り組んでいます。シーシーアイ・マニファクチャリング・イリノイ(米国)でも従業員向けに自動体外式除細動器(AED)、心肺蘇生法(CPR)のトレーニングを隔年実施しています。



総合防災訓練の様子(2024年12月)



安否確認
システム
訓練回答率

100%

(2025年3月)

情報セキュリティ**基本的な考え方**

シーシーアイグループは、企業理念に基づき、事業活動において情報セキュリティの確保は企業の社会的責任を果たす上で重要な経営課題の一つと位置づけ、2023年に「情報セキュリティ基本方針」を策定し、情報セキュリティの維持、向上に取り組んでいます。

方針

「情報セキュリティ基本方針」を当社コーポレートサイトで公開しています。



シーシーアイグループ情報セキュリティ基本方針

情報セキュリティへの取り組み

シーシーアイは、情報セキュリティマネジメント体制を構築し、不適正な事案が発生した場合には、原因究明、再発防止と予防策の措置を講じています。また、業務のデジタル化やDXを推進する中で、サイバー攻撃や情報漏洩によるリスクを軽減するために、セキュリティソリューション(EDR)を導入し、情報セキュリティの強化に取り組んでいます。今後は国内だけではなく、シーシーアイグループ全体での情報セキュリティ管理の強化に努めていきます。

▶ 主な取り組み

- ・情報セキュリティ管理体制の強化
- ・情報資産の管理
- ・情報セキュリティインシデントに対する対応
- ・情報セキュリティ教育

教育の実施

シーシーアイは、全従業員を対象とした情報セキュリティ教育や標的型攻撃メール訓練を実施しています。また、社内SNSツールを活用して、在宅ワーク時のセキュリティ対策等の情報セキュリティに関する情報を発信しています。更に政府のサイバーセキュリティ月間に合わせ、毎年2月～3月を情報セキュリティ強化月間とし、従業員が日常業務の中で情報セキュリティリスクを意識するための啓発活動を行い、従業員一人ひとりの情報セキュリティ基礎知識の向上を図っています。

研修会アジェンダ

1. セキュリティとは
2. 社外からの犯行
3. 社員としてのふるまい
4. 自然現象、物理的損壊
5. まとめ

情報セキュリティ教育資料

ESGデータ一覧

対象範囲 | CCI単体 : シーシーアイホールディングス(株)、シーシーアイ(株)が含まれる
CCI連結(国内): シーシーアイホールディングス(株)、シーシーアイ(株)、日本ケミカル工業(株)、(株)ユエスシー、下田エコテック(株)が含まれる

環境

環境

CO₂排出量 (Scope1、2)※1



環境

総エネルギー使用量



環境

水使用量



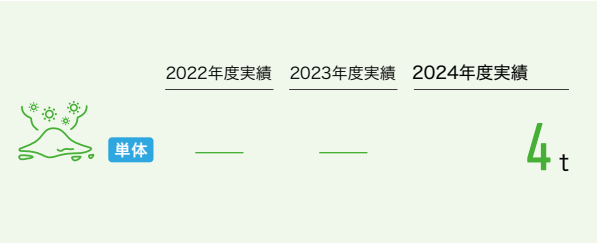
環境

産業廃棄物排出量



環境

有害廃棄物発生量



社会

人材育成

従業員1人当たりの平均研修時間



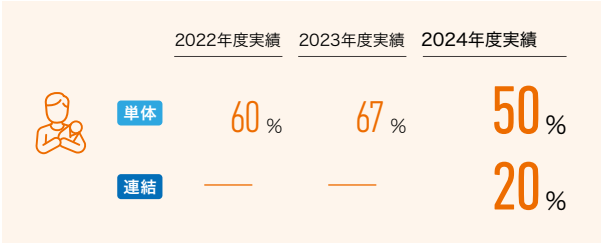
働きがいのある職場づくり

女性育児休業の取得率※2



働きがいのある職場づくり

男性育児休業および育児目的休暇の取得率※3



※1 算定方法の変更に伴い、比較の一貫性を保つため、2022年度、2023年度のデータについても新たな算定方法に基づき再計算しています。また、2024年度より、ガソリン使用によるCO₂排出量を「一次データ」を基にしたデータにて実績値を算出しています。
※2 2024年度に育児休業を開始した人数/2024年度に子どもが生まれた人数 ※3 2024年度に育児休業・育児目的休暇を開始した人数/2024年度に子どもが生まれた人数

ESGデータ一覧

対象範囲 CCI単体 :シーシーアイホールディングス(株)、シーシーアイ(株)が含まれる
CCI連結(国内):シーシーアイホールディングス(株)、シーシーアイ(株)、日本ケミカル工業(株)、(株)ユーエスシー、下田エコテック(株)が含まれる

社会

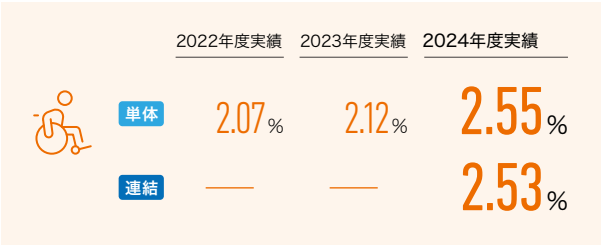
働きがいのある職場づくり

従業員1人当たりの有給休暇平均取得日数



DE&I

障がい者雇用率



労働安全衛生

労働災害件数※4



※4 休業災害以上

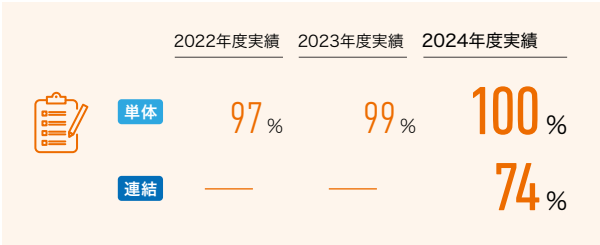
労働安全衛生

健康診断受診率



労働安全衛生

ストレスチェック実施率



ガバナンス

コンプライアンス

コンプライアンス研修受講率



情報セキュリティ

情報セキュリティ研修受講率



情報セキュリティ

重大セキュリティインシデント件数

